

生物多様性に配慮した河床保全や草刈りで害獣異常発生を抑制

7. ハサンベツ里山【北海道栗山町】

範 囲	「ハサンベツ地域」は栗山町市街から北東の御大師山山麓に位置する、かつて雑木林に囲まれた水田だった約24haの離農跡地	
所 在 地	北海道栗山町桜丘	
生 物 地 理 区 分	その他	
環 境 要 素	小川・水路()、池沼・湿地、その他(自然林等)	
自然条件	地 形	栗山町は、北は屈足山系と東は夕張山系につづく緩やかな丘陵地帯。ハサンベツ地区は、御大師山とクッタリ丘陵地に囲まれたハサンベツ川沿いの自然豊かな地域である。
	植生・生物等	栗山町は多様な樹林帯が関係する地域であり、エゾエノキの植生の北限地域であることからオオムラサキの生息発見へと繋がった。また昆虫の南方種と北方種の分布の接点であり、北海道で最も蝶の生息種類が多い場所である。その他にも多くの希少動植物が確認されている。
		 <p>撮影時期：H17年10月 小さな谷地の里山環境のハサンベツ地区(中心部分の全容)</p>
社会条件	人口(市町村)	13,343人(農家率9.2%、副業的兼業農家が多い) 栗山町のデータ(H22年)
	土 地 利 用	市総面積の29.3%が田畑、54.3%が山林である。 栗山町のデータ(H22年) ハサンベツ地区には小高い山と谷間が広がり、農業との関わりの中で美しい里山環境が保たれてきた。
	歴 史 ・ 文 化	「栗山」という語源は、アイヌ語の「ヤム・ニ・ウン」に由来し、「栗の木の繁茂しているところ」に起源している。
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	保安林
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	環境省：日本の里山モニタリングサイト1000(里地調査) 農水省：「立ち上がる農山漁村」選定事例

ハサンベツ里山				
取組主体	タイプ	NPO企業等：NPO・企業・学校等地域の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		ハサンベツ里山計画実行委員会 栗山町教育委員会	ハサンベツ地区における自然と農業と人が共生する住民主導の里山づくり	
経緯	<p>平成13年にハサンベツ地区の自然環境の復元を目的としたハサンベツ里山計画のもと、町内の自然関係団体を中心として、栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会が発足。ホテル・トンボ水路の整備、子供たちが遊べる小川の造成、湿性植物繁殖地の造成と移植、雑木林の復元などの活動を行っている。自然の復元に任せるのではなく町民が主体となり、知恵と労力を出し合っって人の手を加え、里山作りを進めている。</p> <p>子供たちへの体験活動として、ハサンベツ川での水生生物調査や、間伐などの里山体験など、町内外の児童生徒の自然体験教育が行われており、年間2,000人以上の受け入れがある。</p> <p>5～11月の第2日曜日は「ハサンベツの日」と称して町民や賛同者の自主的な参加が行われ、小川づくりや湿原の再生、田んぼ作り等さまざまな活動がなされる。また2002年度に完成させた活動拠点施設「里山センター」の建設は町民からの500円募金やボランティア活動によって行われた。</p> <p>このような取組が評価され、平成22年度「みどりの日」自然環境功労者表彰を受賞。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	かつて周りが雑木林で囲まれる水田地帯であったハサンベツ地区を、自然と農業と人が共生する里山、ふるさとの川として再生・創出していく。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	後継者不足で耕作放棄した離農跡地を、昔ながらの工法で耕作体験を行い活用。本事業は参加型の事業として開催し、教育関係機関との連携を図り、高い効果を上げている。また山林は森の恵みを得られる様な循環型社会の構築を目指し、山林の管理の維持を実施。下枝打ち体験事業で得られた枝などは、炭焼き体験の素材としても活用し、本地区内での自然物の循環が徐々に構築されつつある。その団体の自主的な活動支援措置として町民による募金活動を実施。行政側からは教育委員会等による活動補助金を交付している。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用	自然観察会	ハサンベツ里山活動日を中心とする団体構成員による各種観察会	
		環境教育・学習活動	町内外の小中学校の各教科、総合的な学習の受入	
		里地里山体験・環境保全	月に1度のハサンベツ里山活動日、5月～11月	
		農林業体験活動	山林の下枝打ち体験事業の開催・炭焼き体験の事業の開催、植樹体験の実施、農業体験の実施協力	
		エコツアー その他	町内NPO法人によるエコツーリズムの中核フィールドとして利用 各種シンポジウムの開催	
	野生動植物やその生息地の保全・管理	水環境に生息する魚類などの産卵対象となる河床復元と保全管理を推進。同時に草原環境もバッタの生息環境に配慮した草刈を実施している。その結果、野鳥の猛禽類の餌場として利用され、ノネズミ等の大発生を制御している。		
	地域の良好な景観の保全・修復	体験農園の一環として、蕎麦や米を耕作している。このようにして維持されている山間部の農村景観は高い評価が得られている。栽培されている蕎麦の花からは比較的長期間にわたり、多くの昆虫類の蜜の摂取場所として広く利用され、豊かな生態系の確保に繋がって。		
	里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】
資源利用技術				
その他				
月に一度のハサンベツ活動日の日にて、事業を実施。内容は季節に応じて対応している。				
連携・協働	<p>栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会が計画案及び現場にて業務の遂行。</p> <p>活動の周知及び成果は、町広報と町自然環境ホームページにて掲載。</p> <p>行政側は環境整備や関連法令の確認などを側面から支援。</p>			



撮影時期：H18年6月

町民参加による八サンベツ川の石組作業

撮影時期：H20年7月

小川での水生生物調査

景観としての
利用・評価

写真集などの出版物がある
観光パンフレット等に写真が使用されている

取組の特徴

地域住民の積極的な関わりによる自然環境復元を試み、地域の里山再生・創出につながっている。
町教育委員会が中心となり、八サンベツ川では、魚類など水生動物の産卵対象となる河床の復元と保全管理を推進。草原もバツタの生息環境に配慮した草刈りを行うことで、猛禽類の餌場として使われ、ノネズミ等の大発生を制御する結果となっている。後継者不足で耕作放棄された跡地では、体験農園の一環として蕎麦を耕作し、山間部の景観再生とともに、豊かな生態系の確保にも繋がっている。

【参照資料】

北海道空知支庁 HP (<http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/>)

栗山町 HP (<http://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/index.html>)

北海道栗山町まちづくり推進課「第2回なるほど栗山学」講演要旨

国土交通省北海道開発局(「わが村は美しく - 北海道」運動 2004)